

第 11 回微動の会（見学会、講演会、観測会）参加報告

日時：令和元年 10 月 4 日から 6 日

場所：石川県いこいの村能登半島（講演会） 輪島市能登門前町（観測会）

岩手大学参加者：山本、萬谷、土屋

微動の会は、微動に興味がある全国の研究者、技術者が集まる研究会です。今年は石川県志賀町いこいの村能登半島で開催となりました。参加者による研究などの話題提供だけでなく、見学会、各研究機関、各会社合同の観測会も実施されます。見学会は、現在停止中の志賀原子力発電所でしたので、残念ながら撮影禁止のため証拠写真はありません。ただ、活動再開に向けて様々な調査（強震動、活断層、津波などの対策）が実施されていることを教えていただきました。

講演会では、いつものように、持ち時間の意味がないくらい突っ込んだ質問や飛び交い、深夜まで議論が続きました。観測会を実施する能登門前町は能登半島沖地震で多数の建物の被害が発生した場所です。あらためて微動測定により、被災の原因を探ることができればさらなる技術の発展につながります。

微動の会の参加者の専門分野は、理学の地震学、工学の土木、建築の研究者や技術者だけでなく、情報の専門家や機器開発メーカーや高校教員、行政のかたまで多岐にわたります。また、学生は、同様な調査研究をしている他大学の学生と話しをすることができ良い経験になったようです。

今年は予算の関係上、大学院生および大学院進学予定学生くらいしか会に連れていけませんでした。昨年一昨年は秋田や青森での開催でしたので学生全員を同行できましたが、仕方ありません。次回は四国開催のようで、またまた遠方です。費用をどのように工面いたしましょうか？



写真 最終日観測会のハドルテスト。おそらく全部で 1 億円以上の機器。



写真 今回の講演会場はすばりしかったです。いつもなら宴会場で行うときも。



写真 岩手大学の持ち込み機器は白山工業の微動計 JU310。

